

**コマツ**  
**2017年度 第1四半期(4-6月)**  
**決算説明会**  
**【電話会議】**

**2017年7月28日(金)**

**コマツ出席者**

**代表取締役副社長(兼)CFO 藤塚 主夫**  
**常務執行役員経営管理部長 稲垣 泰弘**

**I. 2017年度 第1四半期(4-6月)決算の概要 <P4-P10>**

- P4-5 : 2017年度第1四半期(4-6月)の概況・各セグメント売上高と利益  
P6-7 : <建設機械・車両> 2017年度第1四半期(4-6月)の状況  
P8 : <リテールファイナンス> 2017年度第1四半期(4-6月)の状況  
P9 : <産業機械他> 2017年度第1四半期(4-6月)の状況  
P10 : 連結貸借対照表

**II. 2017年度の見通し <P12-P21>**

- P12-17 : <建設・鉱山機械> 主要7建機の需要推移と見通し(全体及び地域別)  
P18-19 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の状況  
P20 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高  
P21 : <建設・鉱山機械> KMC\*の概況

**参考資料 <P23-P30>**

- P23-27 : 四半期毎の状況  
P28-30 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

\* KMCはコマツマイニング(Komatsu Mining Corp.)を示す。

## I. 2017年度 第1四半期（4-6月）決算の概要

### 注記

本年4月5日、ジョイ・グローバル社(Joy Global Inc.)の買収が完了しました。その後、4月19日に商号をコマツマイニング（Komatsu Mining Corp.（以下KMC））に変更しています。当第1四半期の決算数値より、連結子会社となったKMCの業績が含まれています。

- ・ 連結売上高は前年同期比+44.2%増収の5,612億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+75.9%増益の524億円。売上高営業利益率は同+1.6ポイント増の9.3%。
- ・ 純利益は前年同期比+133.5%増益の363億円。

金額単位：億円	2016年4-6月 ¥109.8/USD ¥124.3/EUR ¥16.9/RMB	2017年4-6月 ¥111.2/USD ¥121.6/EUR ¥16.3/RMB			前年同期比	
			*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	3,892	5,612	4,872	739	+1,719	+44.2%
セグメント利益(▲損失)	290	529	659	*2 ▲129	+239	+82.8%
その他の営業収益(▲費用)	7	▲5	▲5	-	▲13	-
営業利益(▲損失)	297	524	653	*2 ▲129	+226	+75.9%
売上高営業利益率(▲損失率)	7.7%	9.3%	13.4%	▲17.5%	+1.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲55	▲43			+12	-
税引前純利益	242	480			+238	+98.7%
純利益*3	155	363			+208	+133.5%

\*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

\*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

PPAによる償却費 ※	▲166億円
スタートアップ費用ほか	▲26億円
合計	▲193億円

※ PPAは Purchase Price Allocation  
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略  
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

- 為替レートは、1ドル:111.2円、1ユーロ:121.6円、1元:16.3円です。前年同期比で、円はドルに対して円安、ユーロ、元に対して円高となりました。
- 2017年度第1四半期の連結売上高は、前年同期比+44.2%増収の5,612億円、営業利益は+75.9%増益の524億円となりました。営業利益率は+1.6ポイント増の9.3%です。
- 純利益は+133.5%増益の363億円です。
- 連結売上高は、従来コマツのベースでの売上増加に加え、KMCの新規連結の効果もあり、増収となりました。
- 営業利益については、KMCの一時費用の影響が大きく、KMCは営業損失となりましたが、従来コマツのベースでの利益拡大が図られた結果、全体として増益となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+49.2%増収の5,150億円。セグメント利益は+81.8%増益の479億円。セグメント利益率は+1.7ポイント改善し、9.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+48.0%増収の175億円。セグメント利益は+76.4%増益の33億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、+11.2%増収の386億円。セグメント利益は+38.9%増益の23億円。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

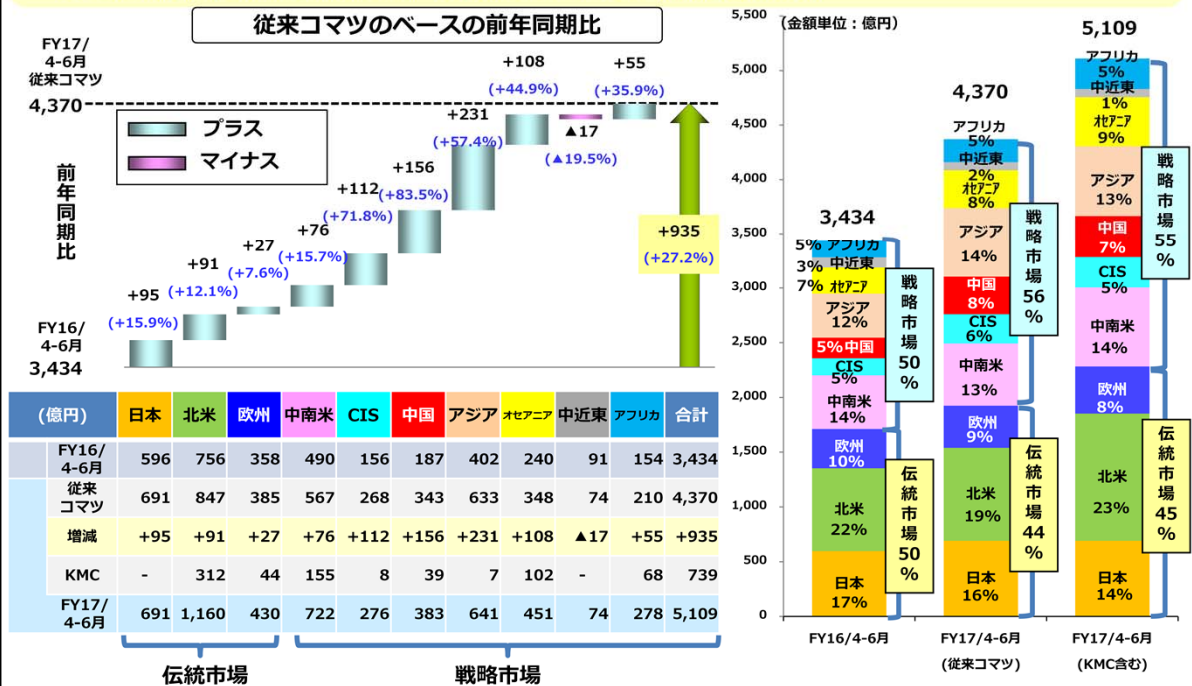
金額単位：億円	2016年4-6月		2017年4-6月		前年同期比							
					増減	増減率						
売上高	3,892	5,612	4,872	739	+1,719	+44.2%						
建設機械・車両	(3,434)	3,451	(5,109)	5,150	(4,370)	4,410	(739)	739	(+1,675)	+1,698	(+48.8%)	+49.2%
リテールファイナンス	(113)	118	(119)	175	(119)	175	-	-	(+6)	+56	(+6.0%)	+48.0%
産業機械他	(345)	347	(382)	386	(382)	386	-	-	(+37)	+38	(+10.8%)	+11.2%
消去		▲25		▲100		▲100		-		▲75		-
セグメント利益(▲損失)	7.5%	290	9.4%	529	13.5%	659	▲17.5%	▲129		+239		+82.8%
建設機械・車両	7.6%	263	9.3%	479	13.8%	609	▲17.5%	▲129		+215		+81.8%
リテールファイナンス	15.9%	18	18.9%	33	18.9%	33		-		+14		+76.4%
産業機械他	4.9%	17	6.1%	23	6.1%	23		-		+6		+38.9%
消去または全社		▲9		▲6		▲6		-		+2		-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
需要が回復している中国やインドネシアでの売上増加及びKMCの新規連結の効果により増収。利益面はKMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失となったが、従来コマツのベースでの利益拡大が図られた結果、全体として増益。
- リテールファイナンス  
チリでの売上増加などに伴い、増収。利益面も、前年同期に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなったことから増益。
- 産業機械他  
コマツ産機やコマツNTCでの売上増加に伴い、全体で増収増益。

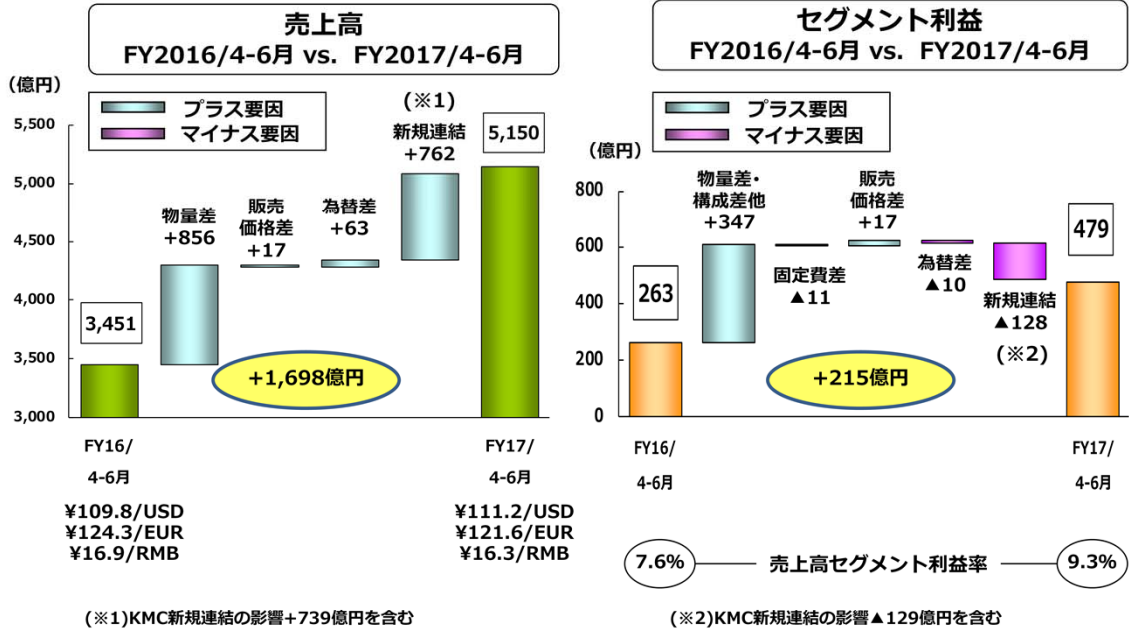
- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比+49.2%増収の5,150億円、セグメント利益は+81.8%増益の479億円となりました。需要が回復している中国やインドネシアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の効果により増収となりました。利益面は、KMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失ですが、従来コマツのベースでの利益拡大が図られた結果、全体として増益となりました。
- リテールファイナンスの売上高は、前年同期比+48.0%増収の175億円、セグメント利益は+76.4%増益の33億円となりました。チリでの売上増加などに伴い、増収となりました。利益面は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となっています。
- 産業機械他の売上高は、前年同期比+11.2%増収の386億円、セグメント利益は+38.9%増益の23億円となりました。コマツ産機やコマツNTCで売上が増加したことにより、増収増益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+48.8%増収の5,109億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+27.2%増収の4,370億円。
- ・従来コマツのベースでは、中近東を除くすべての地域で売上高が増加。特に、中国・CISでの売上の伸び率が大きい。戦略市場の比率は56%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率は55%)



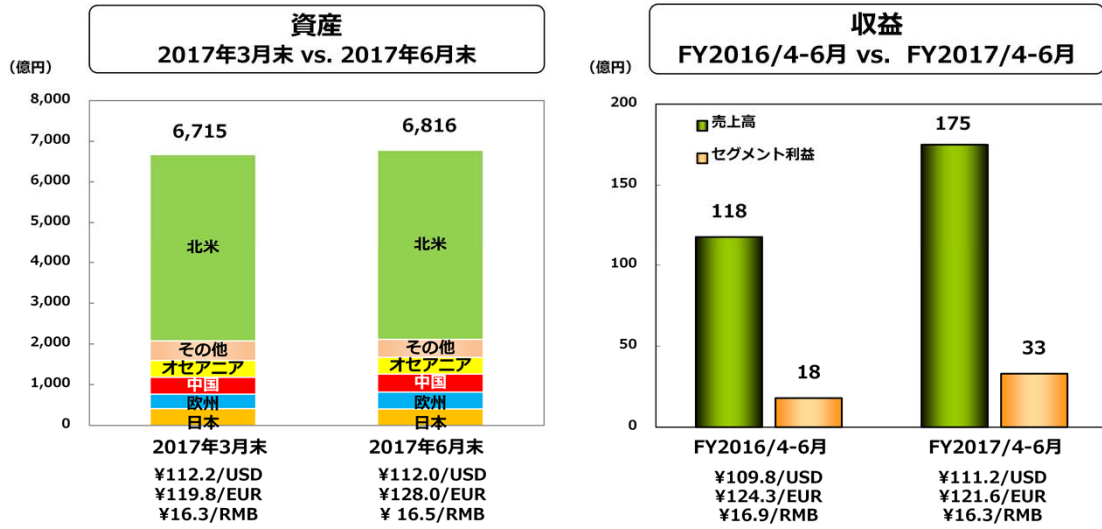
- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比+48.8%増収の5,109億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+27.2%増収の4,370億円となりました。
- 従来コマツのベースでは、中近東を除くすべての地域で売上高が増加。特に、中国・CISでの売上の伸び率が大きいことから、戦略市場の比率は56%に上昇しました。
- KMCを含む全体での戦略市場比率は55%となりました。

- ・売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+1,698億円の増収。セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの全体としては+215億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+1.7ポイント増の9.3%。



- 売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+1,698億円の増収となりました。
- セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの全体としては+215億円の増益となり、売上高セグメント利益率は前年同期比+1.7ポイント改善し、9.3%となりました。

- ・資産は主に北米等でファイナンス契約が増えたことにより増加。
- ・収益は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益。

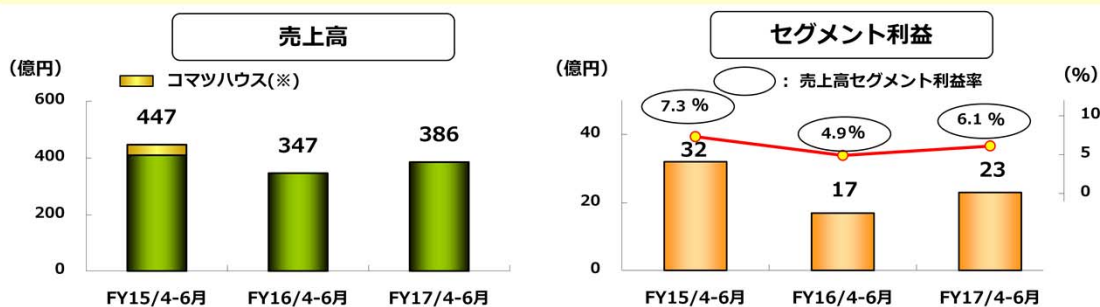


金額単位：億円	2017/3E	2017/6E	2017/3E比
借入金	5,060	5,157	+97
ネットベースの借入金	5,012	5,118	+105
ネットD/Eレシオ	3.65	3.64	▲0.01ポイント

- リテールファイナンスの資産は、主に北米等でファイナンス契約が増えたことにより増加しました。
- 収益については、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となりました。



・売上高はコマツ産機やコマツNTCで売上が増加したことにより、前年同期比+11.2%増収の386億円。売上高セグメント利益率は6.1%。



金額単位：億円	2015年 4-6月	2016年 4-6月	2017年 4-6月	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	128	77	90	+13	+17.4%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	140 [11]	126 [55]	145 [7]	+18 [▲47]	+15.0% [▲86.5%]
ギガフォトン	83	85	83	▲1	▲2.3%
コマツハウス(※)	37	-	-	-	-
その他	58	58	67	+8	+14.5%
合計	447	347	386	+38	+11.2%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡

- 産業機械他部門の売上高はコマツ産機やコマツNTCで売上が増加したことにより、前年同期比+11.2%増収の386億円となりました。
- セグメント利益は前年同期比+6億円増益の23億円、セグメント利益率は前年同期比で+1.2ポイント増の6.1%となりました。

- ・総資産はKMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+5,990億円の増加。
- ・借入金・社債については、KMC買収等により、前年度末比で+4,425億円増加の8,513億円。
- ・株主資本比率は前年度末比▲10.3ポイント減の49.1%。

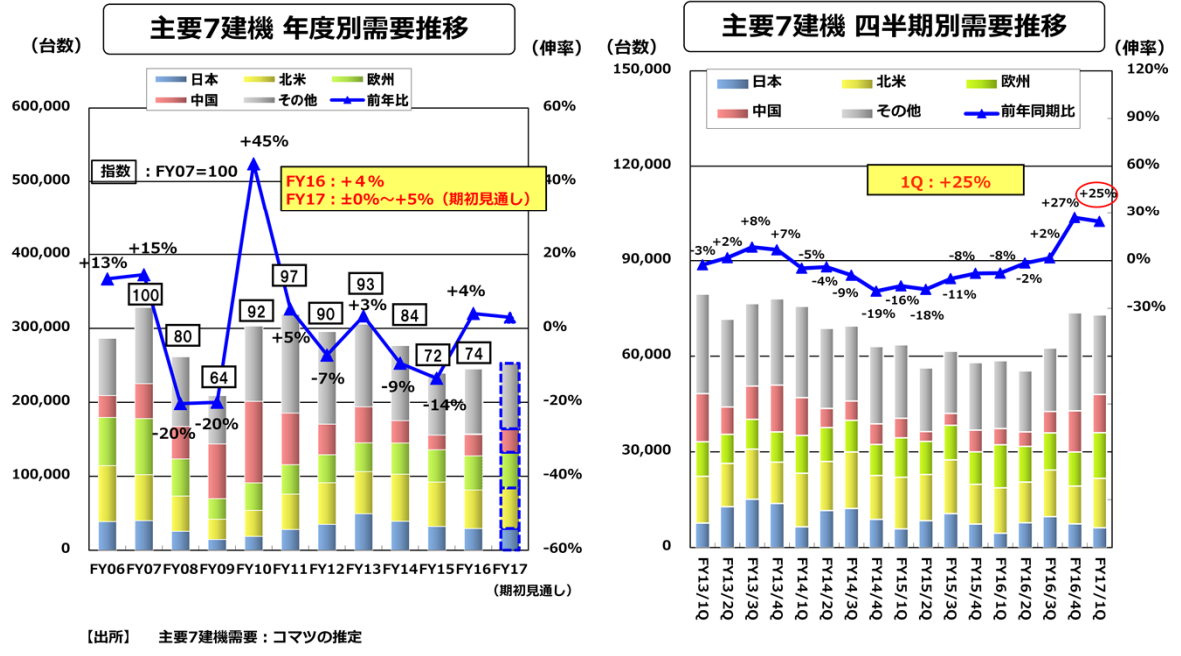
(金額単位：億円)	2017年3月末 ¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥ 16.3/RMB	2017年6月末 ¥112.0/USD ¥128.0/EUR ¥ 16.5/RMB	増減	2017年6月末 KMC 新規連結の影響
現金・預金(含む定期預金) [a]	1,221	1,527	+306	162
受取手形・売掛金(含む長期売上債権)	9,332	9,940	+608	771
棚卸資産	5,338	6,870	+1,531	1,101
有形固定資産	6,790	7,604	+814	859
その他資産	3,881	6,611	+2,729	2,850
<b>資産合計</b>	<b>26,564</b>	<b>32,555</b>	<b>+5,990</b>	<b>5,744</b>
支払手形・買掛金	2,401	2,794	+393	312
借入金・社債 [b]	4,087	8,513	+4,425	1,044
その他負債	3,591	4,509	+917	1,198
<b>負債合計</b>	<b>10,079</b>	<b>15,816</b>	<b>+5,737</b>	<b>2,554</b>
(株主資本比率)	(59.4%)	(49.1%)	(▲10.3ポイント)	
株主資本	15,766	15,996	+230	
非支配持分	718	741	+23	
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>26,564</b>	<b>32,555</b>	<b>+5,990</b>	
→ 補正の借入金・社債 [b-a]	2,865	6,985	+4,119	
→ 補D/E/E	0.18	0.44		

- 総資産は前年度末比で+5,990億円増加しました。KMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴うものです。なお、KMCを除いたベースでの為替の影響は+119億円あります。
- 棚卸資産については、前年度末比で+1,531億円増加しました。KMCの新規連結の影響と為替の影響を除いた従来コマツのベースの実質差は+388億円の増加です。鉱山機械の在庫などが増加しています。
- 借入金・社債は、KMC買収等により、前年度末比で+4,425億円増加の8,513億円となりました。KMCの借入金・社債の残高は1,044億円です。
- 株主資本比率は前年度末比▲10.3ポイント減の49.1%となりました。

## Ⅱ. <建設・鉱山機械> 需要推移と見通し

<建設・鉱山機械> 主要7建機の需要推移と見通し

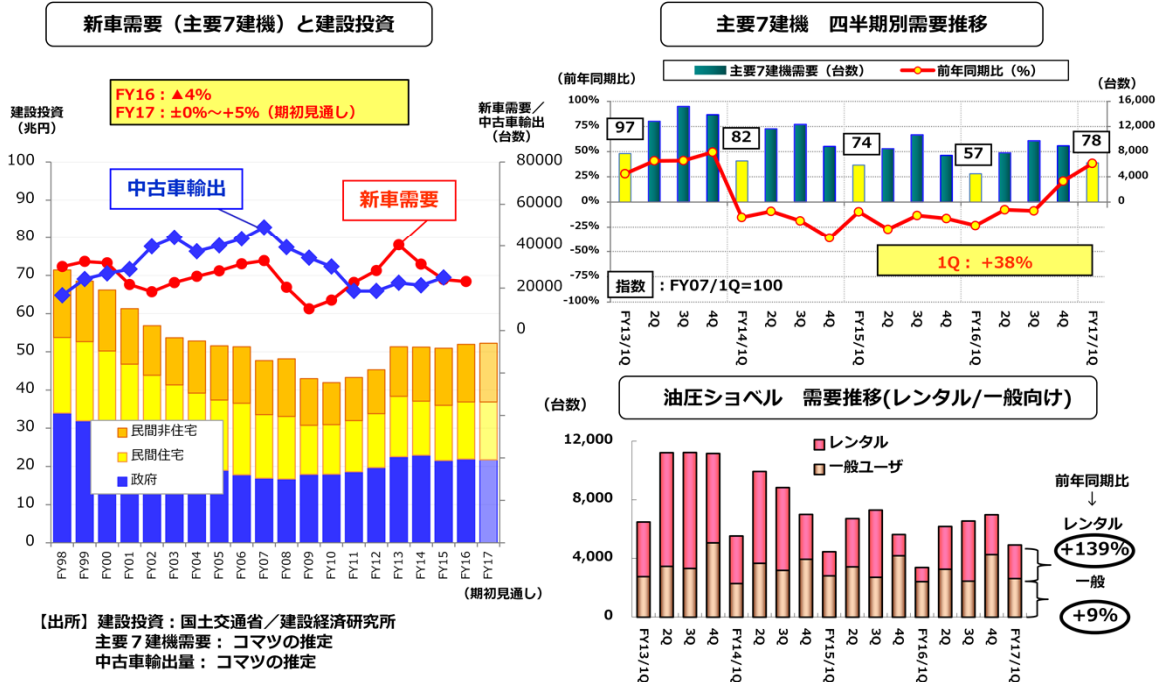
- ・ 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+25%。
- ・ 中国やインドネシアでの需要、および鉱山機械の需要が強含み。
- ・ 年間の需要見通しは、全体として期初見通しから変更無し。



- 主要7建機および鉱山機械の需要につきましては、従来コマツのベースでの推移を表しています。12ページから18ページまでが該当します。
- 2017年度第1四半期の世界需要は、前年同期比+25%の増加となった模様です。
- 中国やインドネシアでの需要、および鉱山機械の需要が強含みとなっています。
- 年間の需要見通しとしては、全体としては期初見通しから変更ありません。

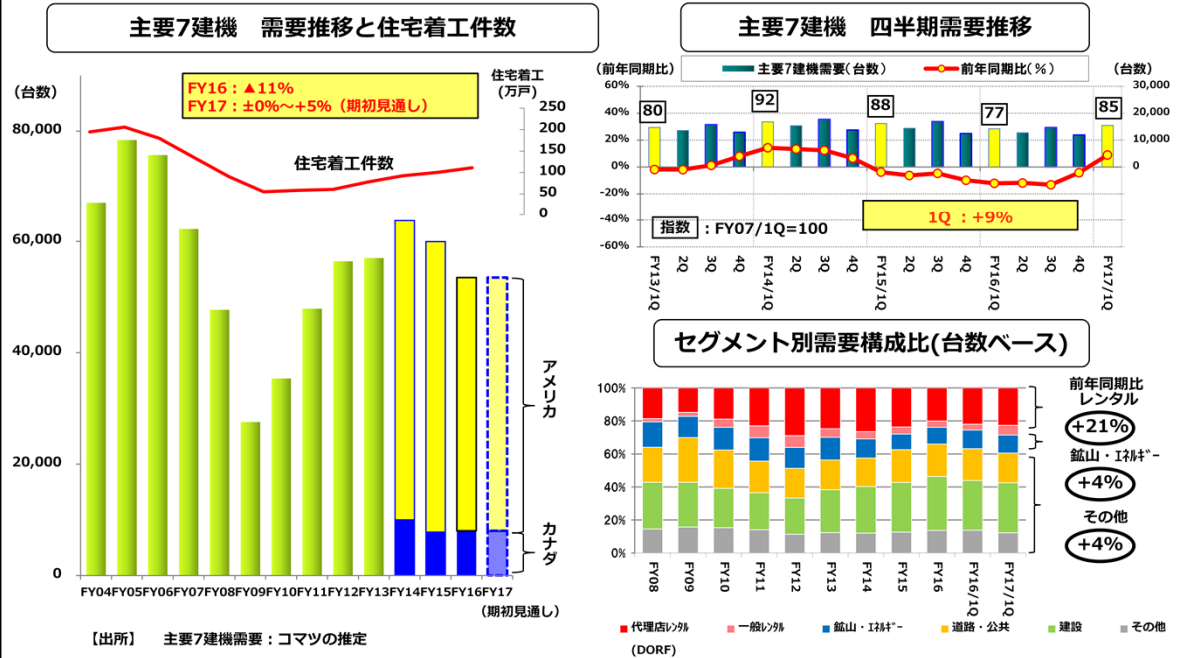
<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

- ・ 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+38%。
- ・ 2016年度第4四半期から続く国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要により、特にレンタル向けを中心に新車需要が増加。



- 2017年度第1四半期の日本の需要台数は、前年同期比+38%増加となった模様です。
- 2016年度第4四半期から続く国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要により、特にレンタル向けを中心に新車需要が増加しました。

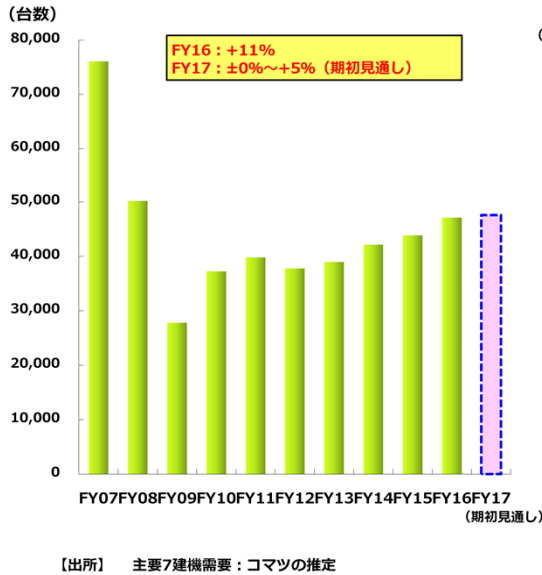
・ 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+9%。  
 アメリカにおいて、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加。  
 カナダはエネルギー分野向けを中心に低迷していたが、回復基調。



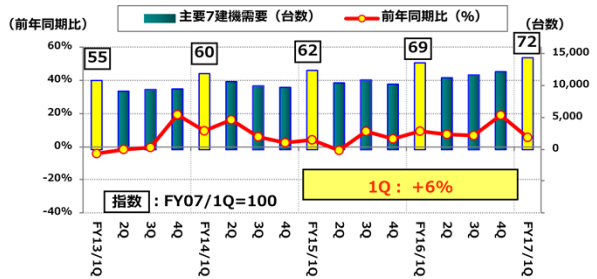
- 2017年度第1四半期の北米の需要は、前年同期比で+9%増加となった模様です。
- アメリカでは、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加しました。
- カナダはエネルギー分野向けを中心に低迷していましたが、2016年第4四半期から引き続き、回復基調となりました。

- ・ 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+6%。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツに加え、北欧が堅調に推移。

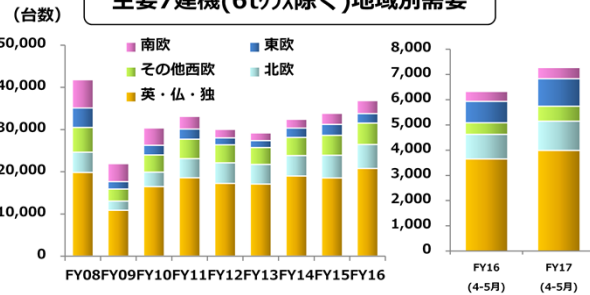
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移

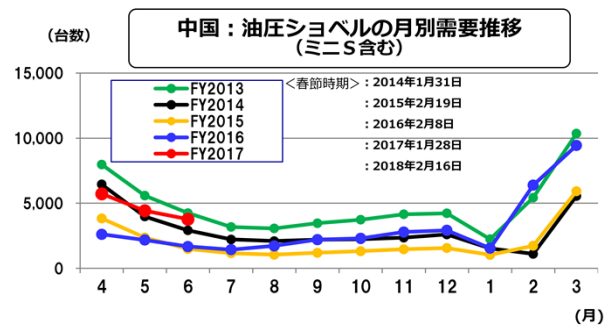
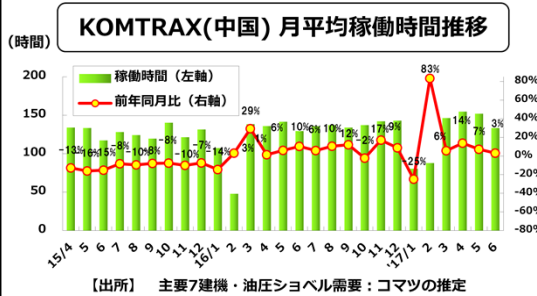
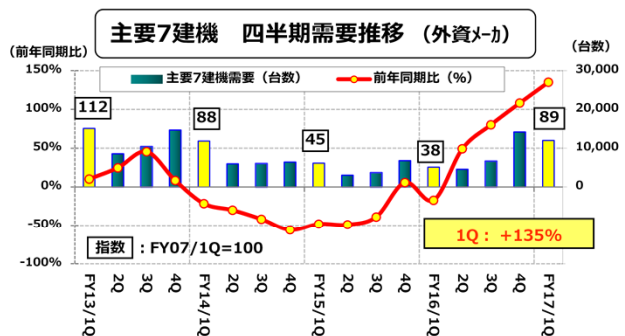
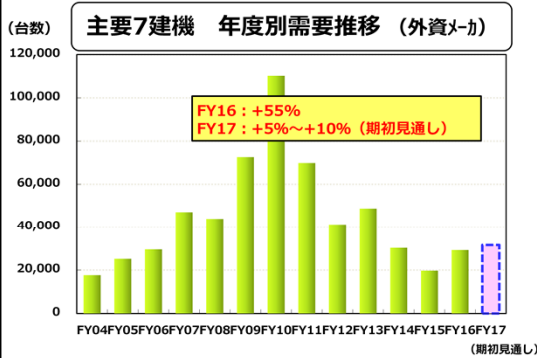


主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



- 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+6%増加となった模様です。
- 引き続き主要市場であるドイツに加え、北欧が堅調に推移しました。

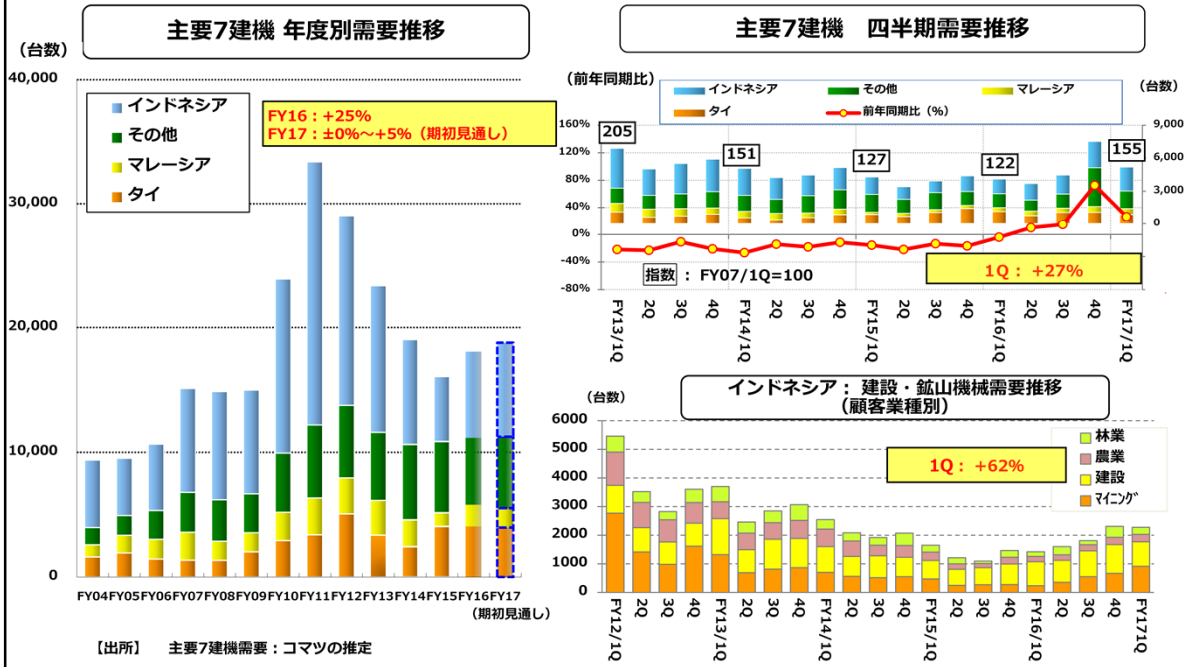
- ・ 2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+135%。
- ・ 前年度に引き続き、インフラ工事が進行し、一般建機需要が伸長。



- 2017年度第1四半期の中国の需要は、前年同期比+135%増加となった模様です。
- 前年度に引き続き、全国的にインフラ工事が進行していることにより一般建機の需要が伸長しました。



- ・2017年度第1四半期の需要は、前年同期比+27%。
- ・最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加。タイの需要は減少傾向。



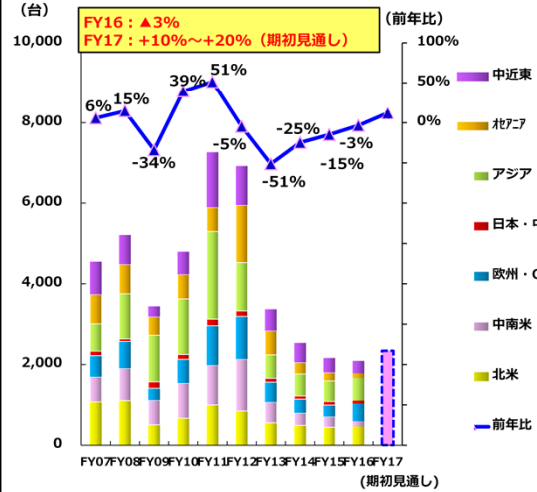
- 2017年度第1四半期の東南アジアの需要は、前年同期比+27%増加となった模様です。
- 最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加しました。タイの需要は減少傾向です。

<建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要推移と見通し

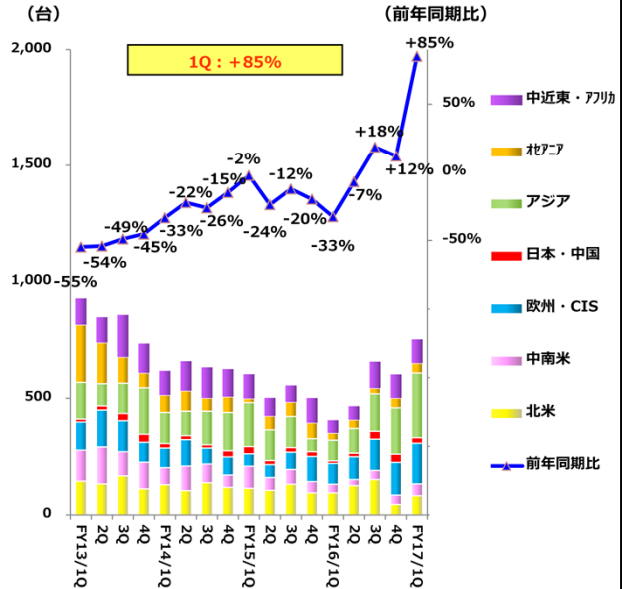
- ・ 2017年度第1四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+85%。
- ・ 引き続きインドネシアなどで需要が増加。
- ・ 年間の需要見通しは、全体として期初見通しから変更無し。

鉱山機械 年度別需要推移

・ ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ フォトルーダー：525HP (D375) 以上  
 ・ エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ ホイールローダー：810HP (WA800) 以上  
 ・ モーターレーダー：280HP (GD825) 以上



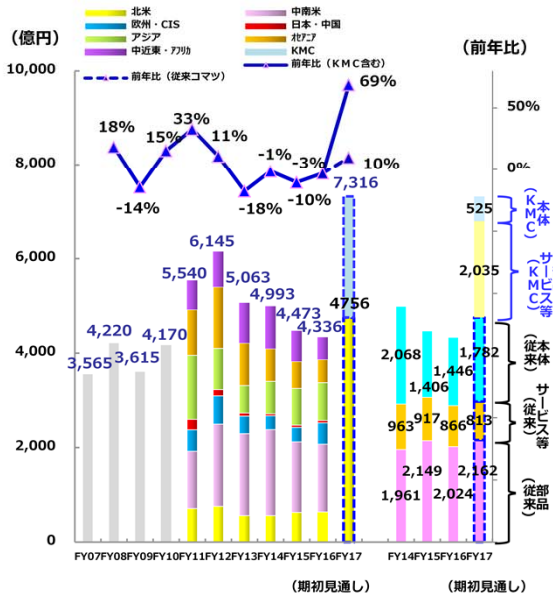
鉱山機械 四半期別需要推移



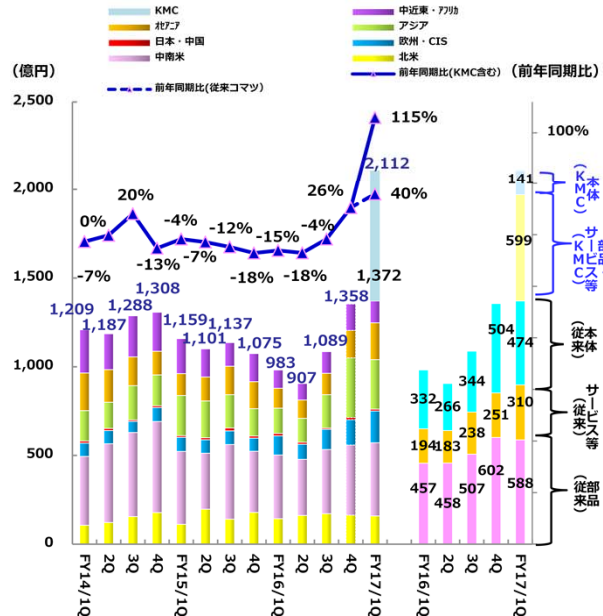
- 2017年度第1四半期の鉱山機械の需要は前年同期比+85%増加となった模様です。
- 引き続きインドネシアなどで需要が増加しています。

- ・ 2017年度第1四半期の売上高は、前年同期比+115%増の2,112億円。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+40%増の1,372億円。
- ・ 従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が伸長。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)

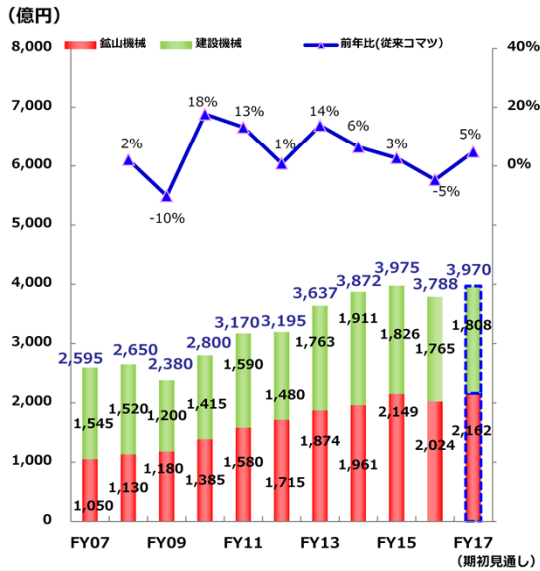


- 当ページでは、2017年度からKMCを含めたベースでの鉱山機械の売上高を表しています。
- 棒グラフの見方ですが、左側の年度別売上高、右側の四半期別売上高、それぞれ2017年度については、KMCの売上高を上乗せして表示しています。折れ線グラフの方は、2017年度について、実線はKMCを含むベース、点線は従来コマツのベースで伸び率を表示しています。
- 2017年度第1四半期の売上高は、全体として、前年同期比+115%増の2,112億円となりました。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+40%増の1,372億円という状況です。
- 従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が伸長しました。

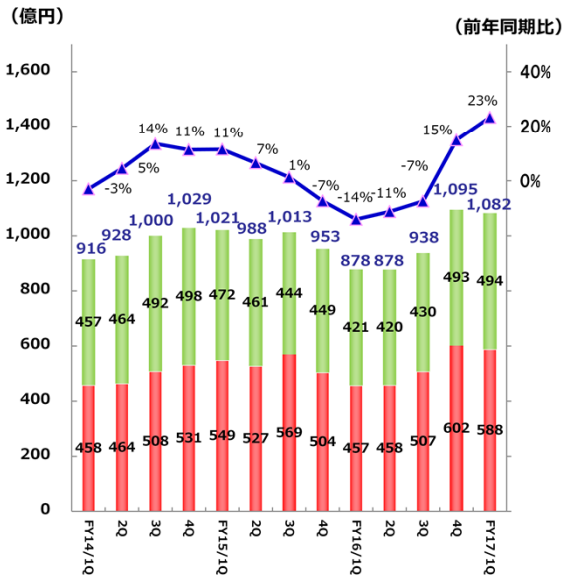
<建設・鉱山機械> 部品の売上高

- ・2017年度第1四半期の従来コマツのベースでの部品売上高は、前年同期比+23%増の1,082億円。
- ・アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが伸長。

部品売上高



四半期別 部品売上高推移



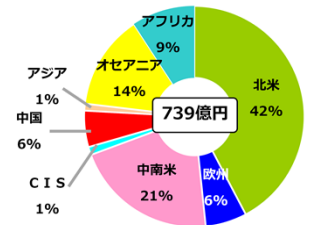
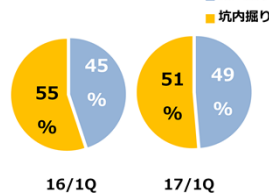
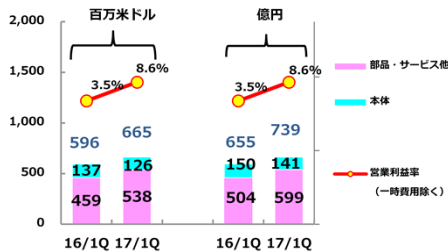
- こちらは従来コマツのみの開示となっています。
- 2017年度第1四半期の部品の売上高は、前年同期比+23%増加の1,082億円となりました。為替の影響を除くと+21%増加です。内訳は一般建機が+15%増、鉱山機械は+25%増という状況です。
- アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが伸長しています。

- ・売上高は、前年同期比+12.9%増の739億円。
- ・一時費用除く営業利益は63億円。一時費用▲193億円を含めると▲129億円の営業損失。

(金額単位：億円)	2016年4-6月 (参考) ※1 (¥109.8/USD)	2017年4-6月 (¥111.2/USD)	前年同期比(参考)	
			増減	増減率
売上高	655	739	+84	+12.9%
本体	150	141	▲9	▲6.4%
部品・サービス等	504	599	+94	+18.8%
営業利益 <一時費用除く>	3.5% 23	8.6% 63	+40	+175.8%
一時費用 (マイナスで表記)	▲41	▲193	▲152	-
PPAによる償却費 ※2	-	※3 ▲166	▲166	-
スタートアップ費用ほか	▲41	▲26	+14	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲2.7% ▲17	▲17.5% ▲129	▲111	-

※1：前年同期である2016年4-6月(コマツの決算期に組替)の数値を参考に記載している。  
 ※2：PPAは、Purchase Price Allocation(パ-チ-ェ-ス・プ-ラ-イ-ス・ア-ロ-ケ-ー-ション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き  
 ※3：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲129億円

四半期別売上高・営業利益率の推移      セグメント別売上高      171Q 地域別売上高 ※4



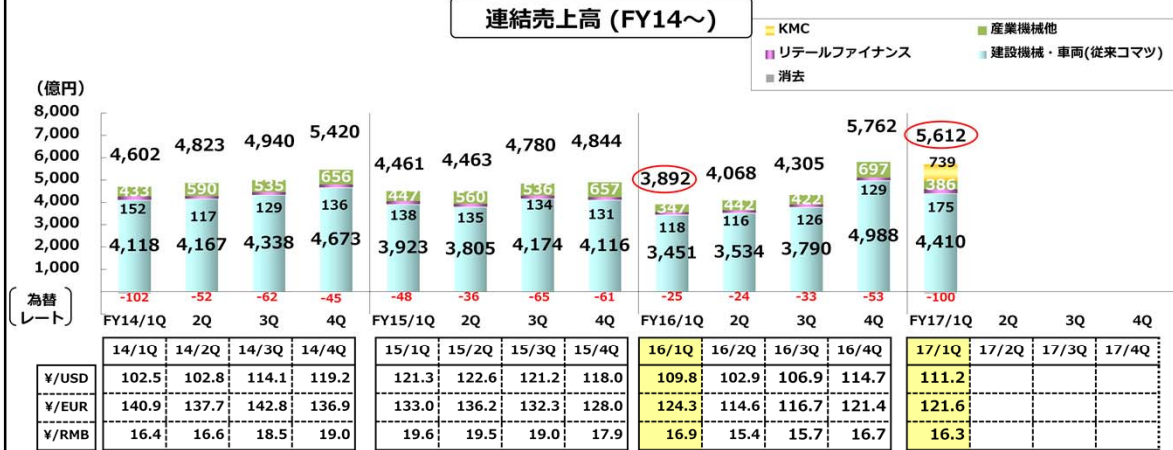
※4：日本と中近東における売上は無し

- ここでは、前年同期である2016年4-6月の数値を、コマツの決算期に組み替えて表示しています。当社の連結決算にはまだ入っていない時期の数値です。
- 2017年度第1四半期のKMCの売上高は、前年同期比+12.9%増の739億円となりました。うち、本体は前年同期比▲6.4%減の141億円、部品・サービス等は前年同期比+18.8%増の599億円という状況です。
- 一時費用除く営業利益は63億円です。一時費用▲193億円を含めると▲129億円の営業損失となりました。
- PPA (Purchase Price Allocation) による償却費は▲166億円となり、そのうち棚卸資産に係る金額は▲129億円です。
- セグメント別の売上高比率は、露天掘りが49%、坑内掘りは51%でした。
- 地域別売上高のうち、北米の割合は42%です。

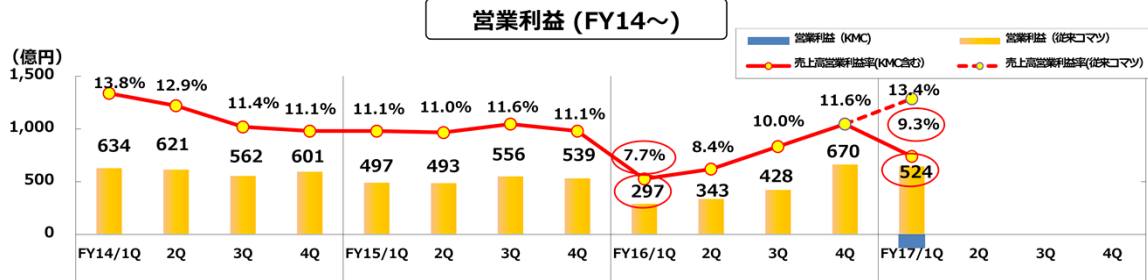
**参考資料**

【参考資料】  
四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY14~)

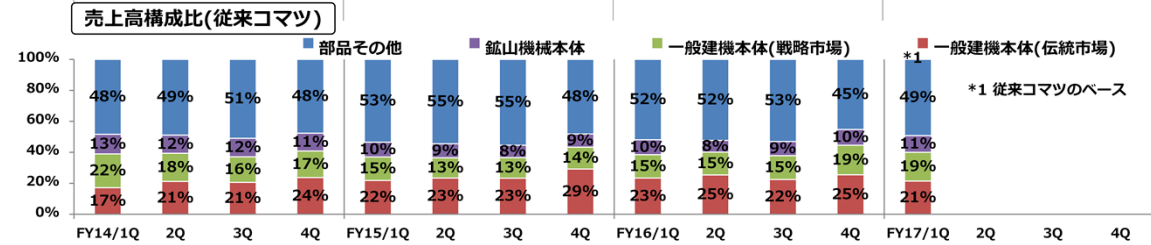
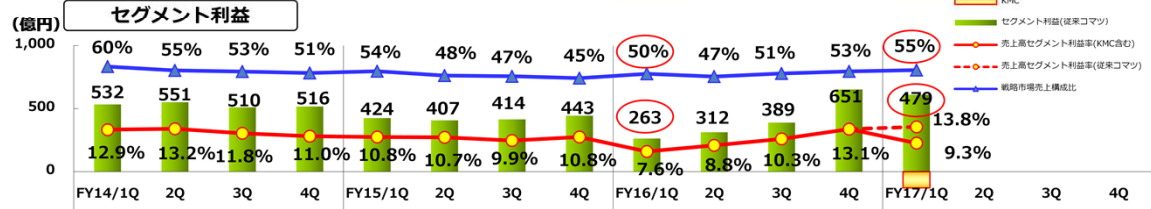


営業利益 (FY14~)

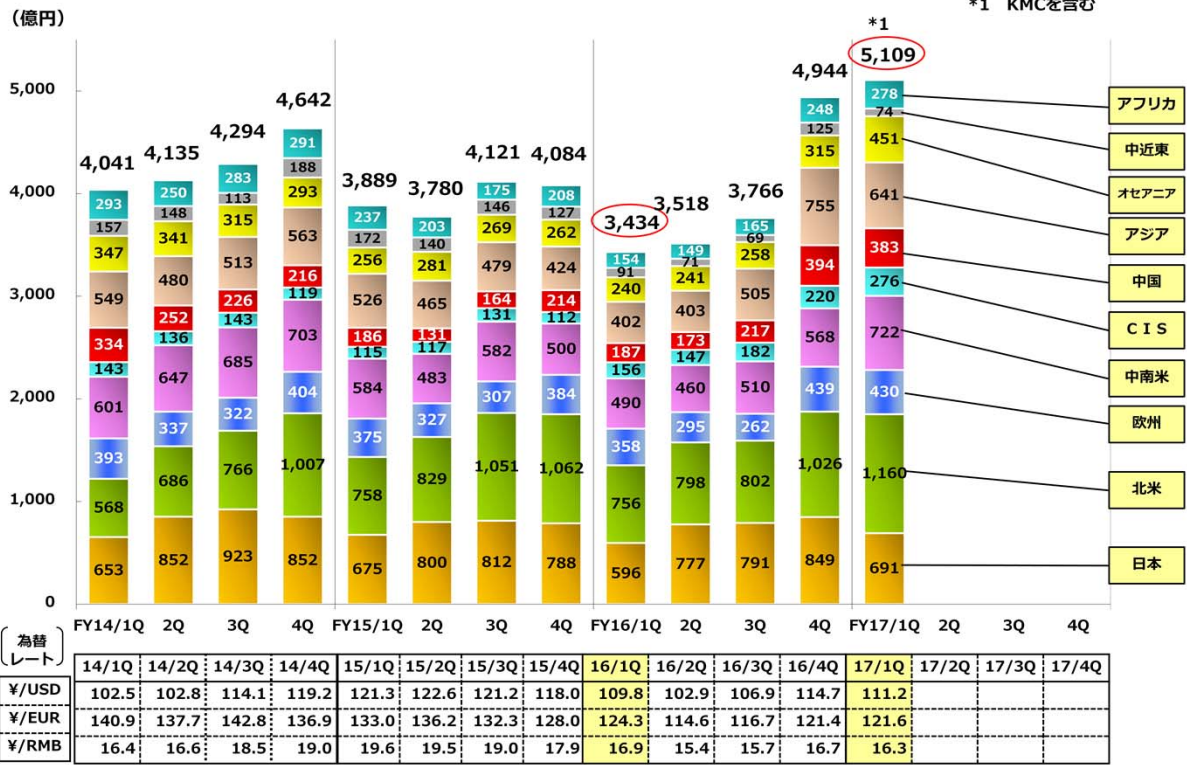


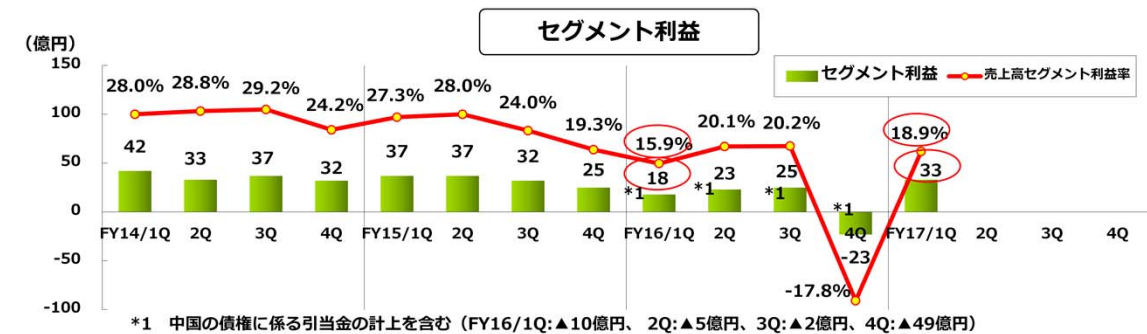
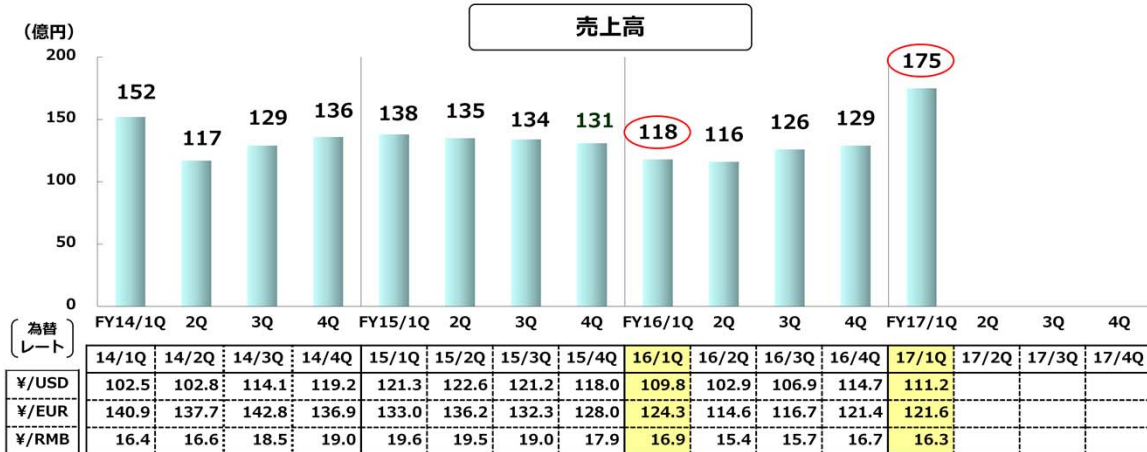


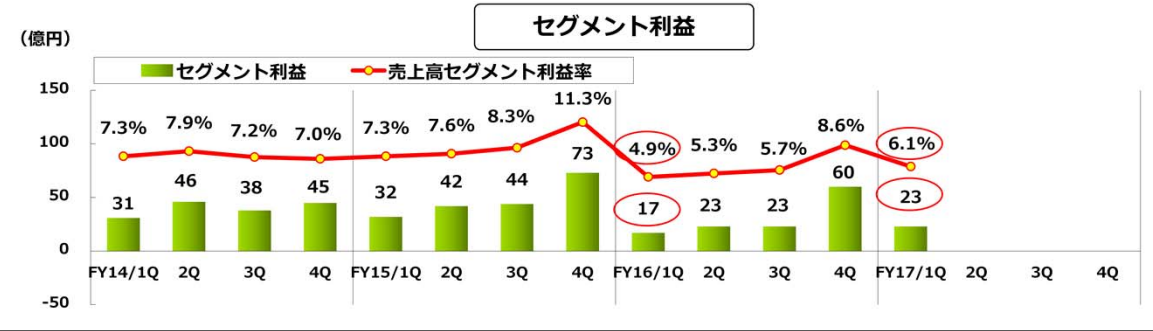
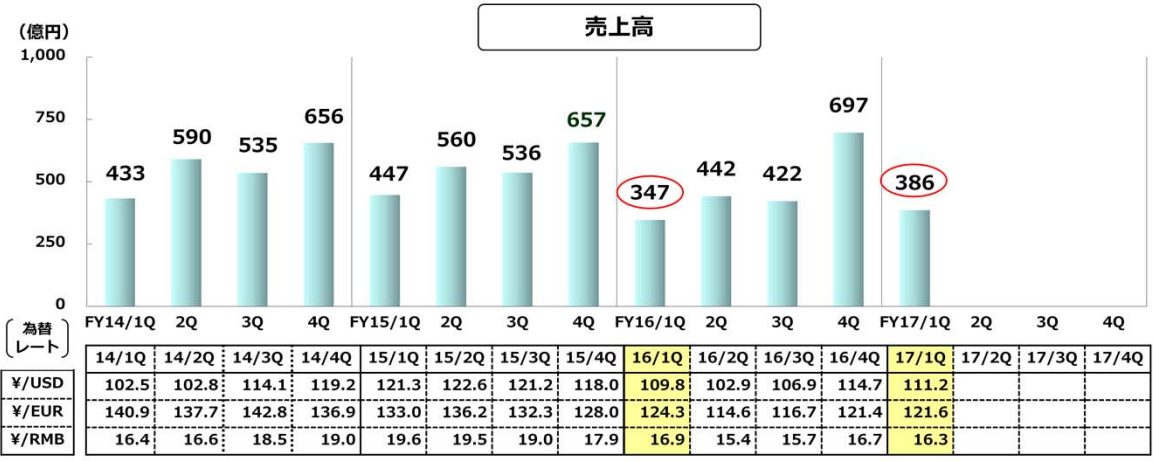
	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2			
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6			
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3			

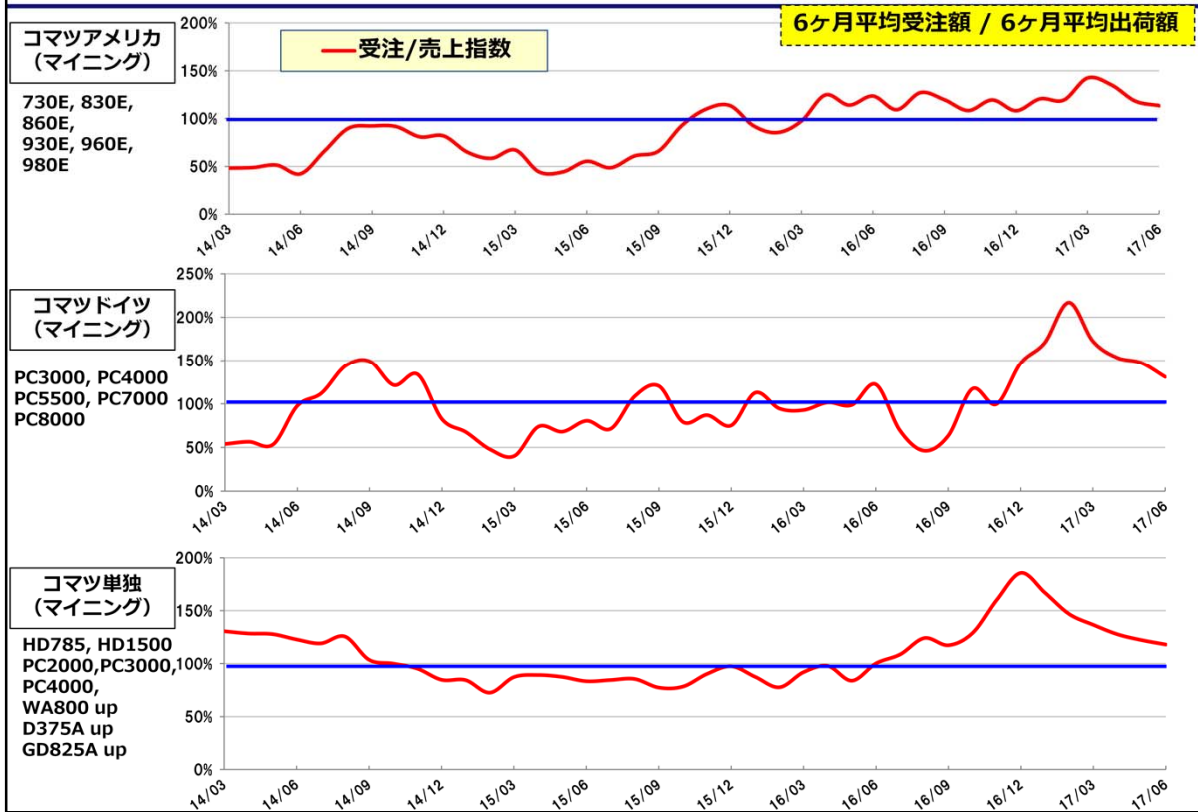








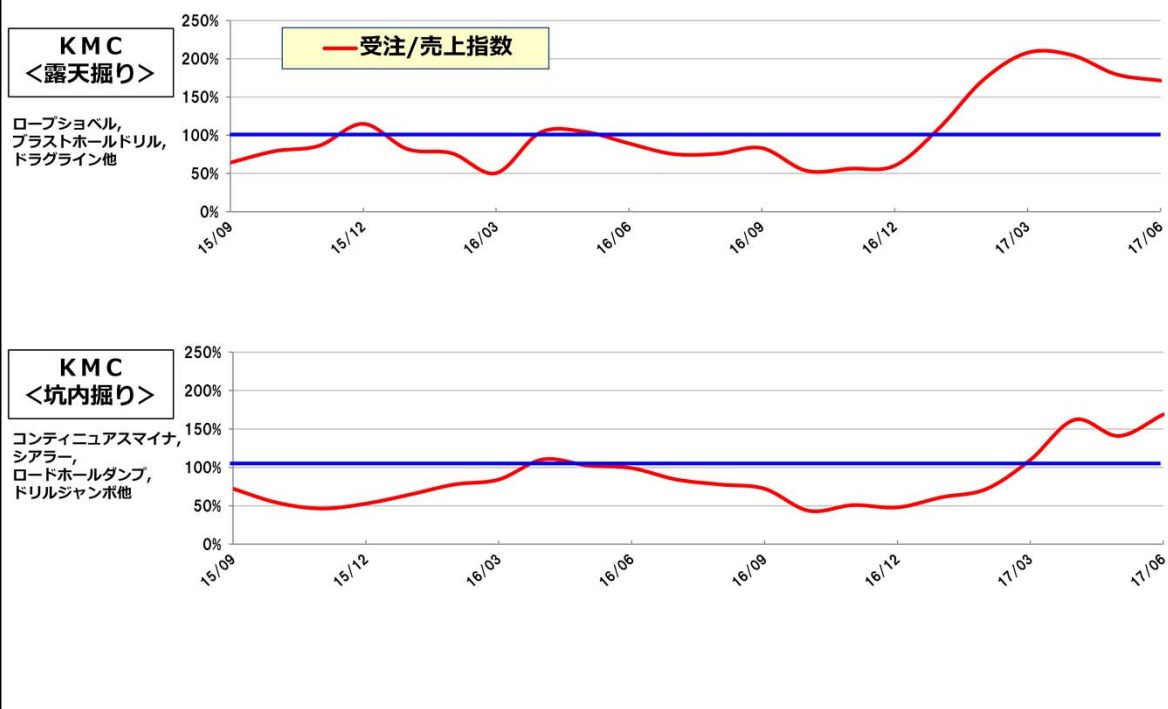




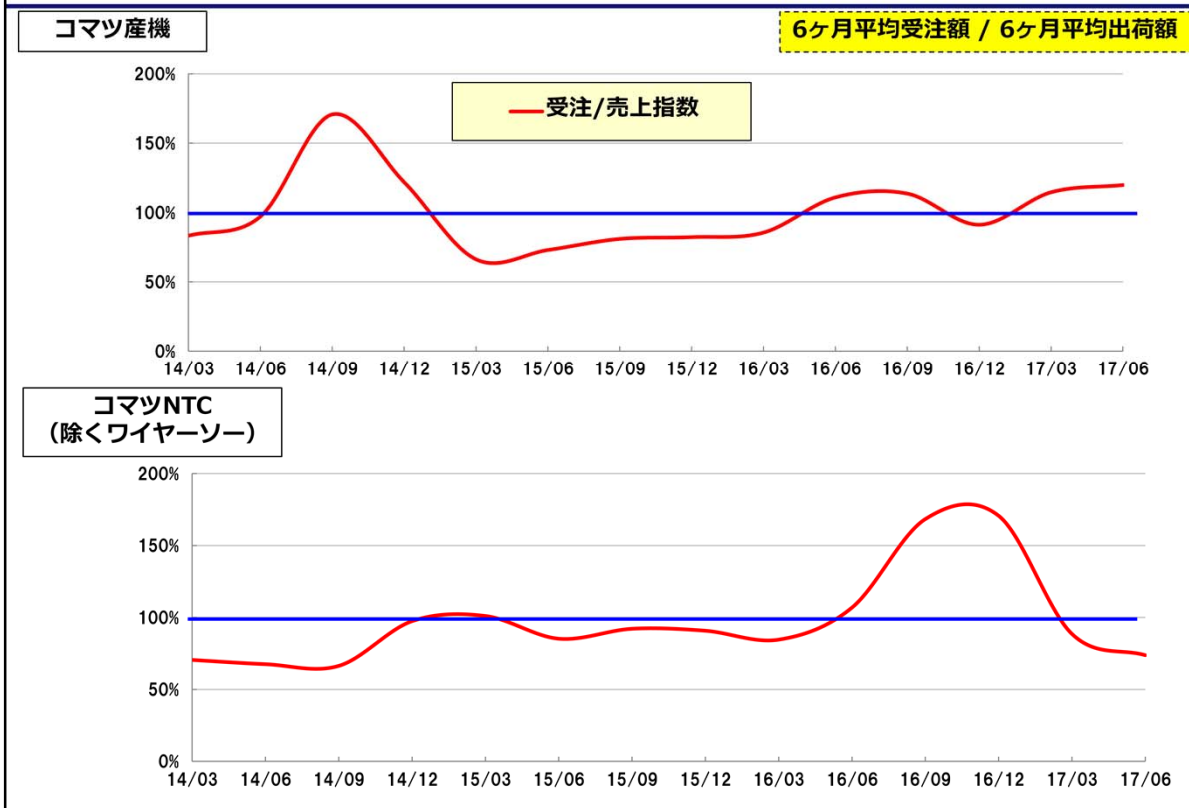
□ 鉱山機械本体の受注と売上の指数の推移を示しています。

□ グラフは直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



- KMC製の鉱山機械本体の、2015年9月以降の受注と売上の指数の推移を示しています。
- 上段がロープショベルやプラストホールドリルなどの露天掘り機械について、  
 下段がコンティニューアスマイナやシアラーなどの坑内掘り機械についての指数の推移です。



- 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。
- グラフは直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

・コマツ、(株)NTTドコモ、SAPジャパン(株)、(株)オプティムは、建設生産プロセスに関与する、土・機械・材料などのあらゆる「モノ」をつなぐ新プラットフォーム「LANDLOG (ランドログ)」を2017年10月に建設事業者向けに提供開始することをめざし、4社共同で企画・運用することに合意しました(2017年7月19日)。

**LANDLOG (ランドログ)**  
建設生産プロセスのイノベーションを加速させるオープンプラットフォーム





新型コントローラの採用により  
生産性が大きく向上した  
3次元ファイバーレーザー加工機  
「TLH508」



高付加価値加工と高生産性を両立  
するACサーボプレス「H1F150-2」



高生産性と高精度加工を両立する  
ハイドロリックACサーボドライブ  
プレスブレーキ「PVS1353-NET」

- ・ コマツ産機株式会社は、2017年7月、東京ビッグサイトで開催された「MF-Tokyo2017」(第5回プレス・板金・フォーミング展)に最新鋭の産業機械を出展しました。
- ・ 「未来のGEMBAを提案 ~KOM-MICSから広がる未来工場~」をテーマに、コマツ独自のIoT生産支援プラットフォーム「KOM-MICS」も紹介し、多くの来場者の注目を集めました。

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687  
FAX: 03-3582-8332  
<http://www.komatsu.co.jp/>